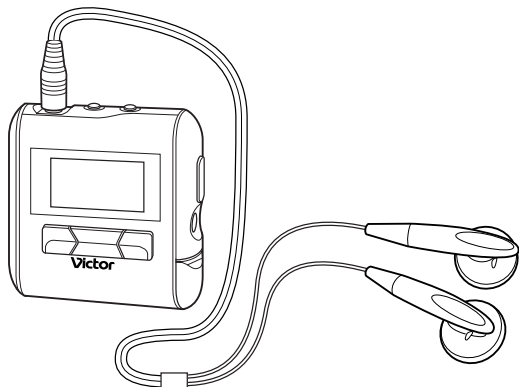
取扱説明書

デジタルオーディオプレーヤー

XA-MP20-A/-P
XA-MP50-A/-W
XA-MP100-H/-N

お買い上げありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この**「取扱説明書」**をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に**「安全上のご注意」**は、必ずお読みになり安全にお使いください。そのあと大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT1510-001B
[DOM]

目次

■ ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。

(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

・ Microsoft、Windows、および Windows Media は米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。
・ 本取扱説明書に記載の他のシステム名および製品名は通常、そのシステムまたは製品の開発メーカーの登録商標です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。「安全に正しくお使いいただくために」に従って正しい取り扱いをしてください。

安全に正しくお使いいただくために

安全に正しくお使いいただくための表示について

本書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。

危険　：人が死亡する、または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警告　：人が死亡する、または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　：人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■ 絵表示の例

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。記号の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

本体について

⚠ 警告

■ 自動車やバイク、自転車などを運転中は使用しない

- 運転中に使用すると、交通事故の原因となります。
- また、歩きながら（特に踏切や横断歩道など）使用するときも周囲の交通や路面状況に十分ご注意ください。

■ 分解・改造しない

- 内部に金属物が入ると、故障や火災、感電の原因となります。
- 点検や修理は販売店にご依頼ください。

⚠ 注意

■ 大音量で長時間つづけて聞きすぎない

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- はじめから音量を上げすぎると、突然大きな音が出て耳をいためることがあります。
  音量は徐々に上げましょう。

■ 水をかけたりぬらしたりしない

- 機器を水がかかる場所（風呂場や台所など）で使用すると、内部に水が入り、火災や故障の原因となります。

乾電池について

⚠ 警告

■ 乾電池は正しく取り扱う

- ⊕と⊖（プラス マイナス）は、機器の表示のとおり正しく入れる。
- 充電しない。
- 加熱や分解をしない。
- 火の中に入れない。
- 長時間使用しないときは、本体から取り出しておく。
- ⊕と⊖（プラス マイナス）との端子をショートさせない。また金属性のネックレスやコインなどと一緒に携帯しない。

● 取り扱いを誤ると、電池の液もれによりけがや周囲を汚す原因となります。万一、もれた液が体についたときは、水でよく洗い流してください。

使用上のご注意

■ 本体の置き場所について

次のような場所には置かないでください。変形や変色、故障の原因となります。

- 窓を閉めきった自動車の中（とくに夏期）
- 風呂場など湿気の多いところ
- ホコリの多いところ
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近く
- 腐食性のガスなどが発生するところ

■ **航空機の中では電源を入れないでください**

機内の電子機器に影響を与える恐れがあります。機内では必ず電源を切っておいてください。

■ **電池を交換するときは、必ず電源を「切」にしておいてください**

電源「入」のまま交換すると、故障の原因になることがあります。

■ **落としたり強い衝撃を加えないでください**

破損や故障の原因になることがあります。

本書の読みかた

本書をより活用していただくために、本書の読みかたをご紹介します。
本書は以下の構成になっています。
第 1 章は、最初にお読みください。第 2 章と第 3 章は、ご利用の目的によってお読みください。第 4 章で音楽を再生します。
第 5 章と第 6 章は、必要に応じてお読みください。

最初に必ずお読みください

本書の読みかた

第 1 章　はじめにお読みください

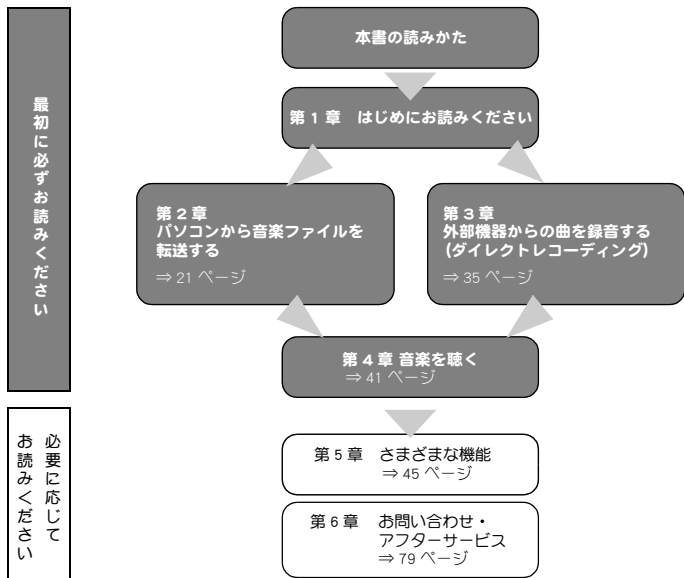
第 2 章
パソコンから音楽ファイルを転送する
⇒ 21 ページ

第 3 章
外部機器からの曲を録音する(ダイレクトレコーディング)
⇒ 35 ページ

第 4 章 音楽を聴く
⇒ 41 ページ

必要に応じてお読みください

第 5 章　さまざまな機能
⇒ 45 ページ

第 6 章　お問い合わせ・アフターサービス
⇒ 79 ページ

第 1 章 はじめに お読みください

1-1. XA-MP シリーズのご紹介

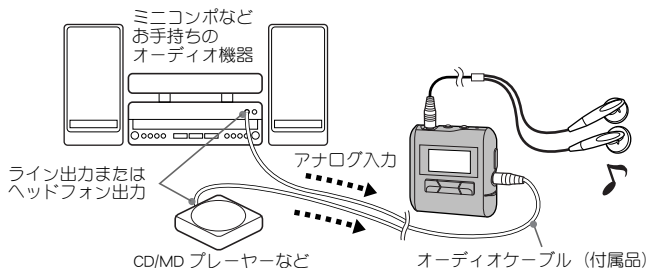
このたびは、『XA-MP20/50/100』（以降、『本機』と記します）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機は手軽に音楽を楽しむことのできるデジタルオーディオプレーヤーです。
本書は、初めてデジタルオーディオプレーヤーをご使用される方にも安心して操作を進めていただけるような構成になっています。
本機をご使用になる前に、必ず本書をお読みいただき、また読んだあとも本書をお手元に置いて、いつでも活用できるようにしてください。

本機を使用するうえでのご注意

- パソコンに接続するときは、本機の電源を切っておいてください。
  パソコンに接続すると自動的に電源が入ります。
- 本機は 50 フォルダ、8 階層、550 ファイルまで取り扱うことができます。
  これを超えると動作保証できなくなりますのでご注意ください。
- 本機にはアルカリ乾電池を使用してください。
  その他の電池では電池寿命が極端に短くなったり、誤動作を起こす場合があります。
- Windows98SE のパソコンにのみ、付属 CD-ROM からのドライバのインストールが必要です。
  WindowsMe 以降（WindowsXP/Windows2000）のパソコンにはドライバのインストールは不要です。

主な特長

● パソコンを使わずに手軽に曲を録音！（ダイレクトレコーディング）

ミニコンポやラジカセなどのお手持ちのオーディオ機器と本機を直接接続して音楽を録音できます。

くわしくは、「第 3 章 外部機器からの曲を録音する （ダイレクトレコーディング）」（→ 35 ページ）をご覧ください。

● さまざまな音楽フォーマットに対応！（MP3/WMA/WMA-DRM）

MP3 および WMA の 2 つのフォーマットに対応。また、デジタル著作権管理技術に対応した WMA-DRM も再生できます。

● 音楽以外のデータの保管にも！（USB マスストレージ機能搭載）

画像データや文書データなどの音楽ファイル以外のデータを、USB 接続したパソコンから転送・記録できます。データの携帯に便利な USB メモリとしても手軽に活用できます。

● 音質を自由にカスタマイズ！（「5 バンドカスタムイコライザー」機能を装備）

5 つのプリセットパターンからお好きなパターンを選択できるほか、お好みのイコライジングパターンも作成できます。

1-2. 箱の中身を確認する

お使いになる前に付属品をご確認ください。不足しているものがありましたら、お買い上げいただいた販売店またはビクターサービス窓口にご連絡ください。

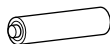
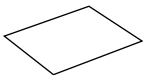
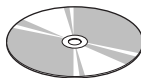
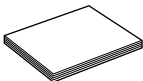
● 本機

● ヘッドフォン

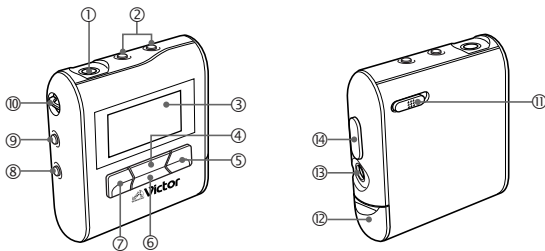
● USB ケーブル

● オーディオケーブル

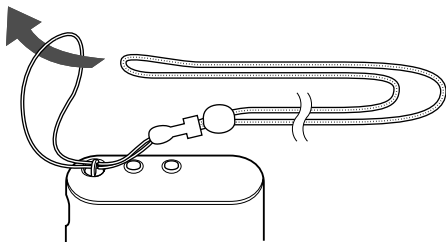
● ネックストラップ

● アルカリ乾電池

● デジタルオーディオプレーヤー クイックガイド

● CD-ROM（Windows98SE 用ドライバ）

● 取扱説明書（本書）

1-3. 各部の名前とはたらき

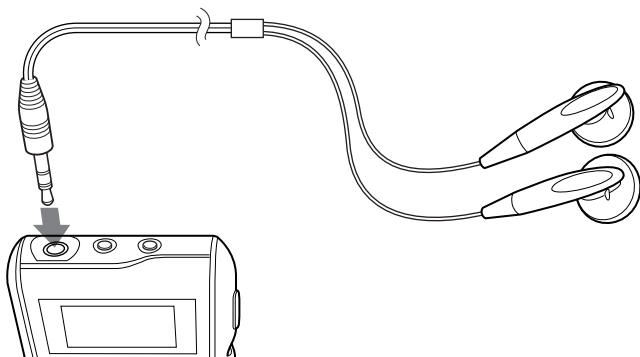
本体

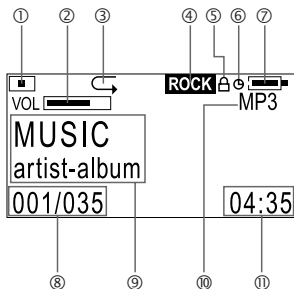
各部の名前は次のとおりです。

① ヘッドフォン端子
② VOL+/-（ボリューム）ボタン
③ ディスプレイ
④ ►/❚❚（再生 / 一時停止）ボタン
⑤ ►►❙（早送り）ボタン
⑥ ■（停止）ボタン
⑦ ❙◄◄（早戻し）ボタン
⑧ REC ボタン
⑨ MENU ボタン
⑩ ネックストラップ取り付け穴
⑪ HOLD スイッチ
⑫ 電池カバー
⑬ LINE IN 端子
⑭ USB 端子

● ネックストラップの取り付けかた

同梱のネックストラップを取り付けると持ち運びが便利になります。

※ストラップが取り付けづらい（穴に通しづらい）ときは、先の細いとがったものなどを使って通してください。

● ヘッドフォンの取り付けかた

ヘッドフォン端子 にヘッドフォンプラグを差し込みます。

ディスプレイ

【再生中のディスプレイ表示】
再生中のディスプレイ表示は次のようになります。

① 動作インジケーター
② ボリュームレベル
③ 再生モードインジケーター
④ EQ（サウンドモード）
⑤ ロックアイコン
⑥ スリープタイマーアイコン
⑦ バッテリーインジケーター
⑧ 曲番号 / 合計曲数
⑨ ファイル情報（※ 1）
⑩ モードインジケーター
⑪ 曲再生時間

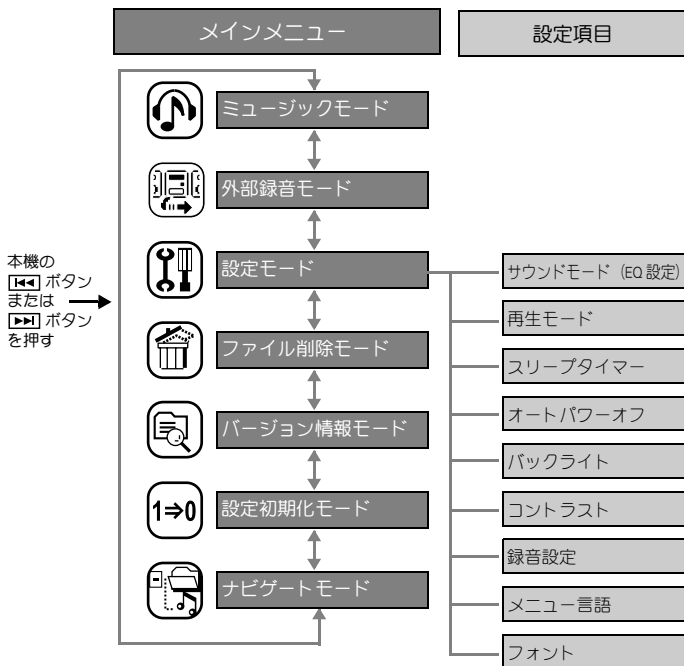
※ 1：上下の欄の表示内容が共に長い時は、スクロールをする際に表示にズレが生じます。

【メインメニュー表示】

本体の MENU ボタンを押すと、メインメニューが表示されます。
メインメニューには次の 7 種類のモードがあります。

【画面例】

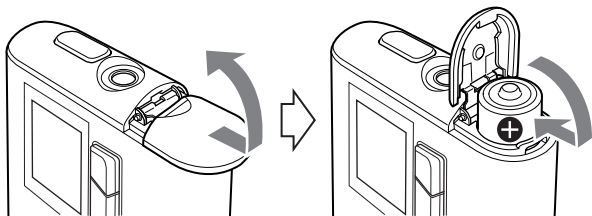
モード	内　容
ミュージックモード	曲を再生します。(→ 42 ページ)
外部録音モード	外部機器から曲を録音（MP3 形式）します。(→ 35 ページ)
設定モード	本機の各種設定を行います。(→ 46 ページ)
ファイル削除モード	音楽ファイルを削除します。(→ 69 ページ)
バージョン情報モード	本機のバージョン情報などを表示します。(→ 71 ページ)
1⇒0 設定初期化モード	「設定モード」で設定した内容を初期化します。(→ 73 ページ)
ナビゲートモード	音楽ファイルとそれを収納しているフォルダの階層をツリー形式で表示します。 聞きたい音楽ファイルを検索し再生できます。(→ 75 ページ)

メインメニューと設定モードでは、次の設定項目が表示されます。

お知らせ

- メインメニューは、本機の ⏮ または ⏭ ボタンを押して切り替えます。
- 設定のしかたについては、各設定項目の説明のページをご覧ください。

1-4. 電源を入れる

電池を入れる

電池カバーを開け、アルカリ乾電池（付属）を入れます。本体裏側に表示された極性（+ および -）に合わせて正しく挿入し、電池カバーを閉めます。

※カバーを充分に引き出した状態で閉じ、
真横にスライドさせて閉めます。

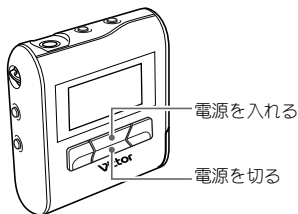
● バッテリーインジケーター

バッテリーインジケーターは電池の残量を示します。残量が少なくなると「バッテリーがありません」と表示されます。新しい電池と交換してください。

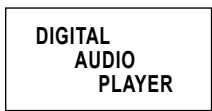
バッテリーがありません

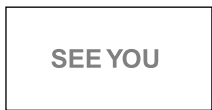
バッテリー取り扱い上の注意

- 長時間本機を使用しない場合は、電池の液もれや破損防止のため必ず電池を取り外しておいてください。
- 電池を廃棄する場合は、地域の規定に従って正しく廃棄してください。
- 電池が液もれしている場合は、ただちに廃棄してください。皮膚のやけどや身体障害の原因となります。
- 本機には、アルカリ乾電池を使用してください。マンガン電池や充電池を使用すると、電池寿命が極端に短くなったり、誤動作を起こす場合があります。

電源を入れる、電源を切る

● 電源を入れる

ディスプレイに「Welcome!」が表示されるまで、本機の ►/II ボタンを押し続けます。
しばらくするとディスプレイに以下のように表示されます。

DIGITAL
AUDIO
PLAYER

● 電源を切る

本機の ■ ボタンを押し続けます。
ディスプレイに以下のように表示され、電源が切れます。

SEE YOU

お知らせ

- 本機で行った各種設定は電源を切るときに記録されます。(電池を抜いて電源を切った場合は記録されません)。設定値を変更したときは一度電源を切り、設定内容を記録してください。

第２章 パソコンから音楽ファイルを転送する

2-1. ご使用になる前に

● ご使用になる前のお知らせ

* SAVE YOUR MUSIC
本製品で記録したものを「私的な目的」以外で、著作権者およびほかの権利者の承諾を得ずに複製、配布、配信することは著作権法および国際条約の規定により禁止されています。

* 何らかの不具合により、正常に録音や再生できなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。
* 大切なデータはパソコン等にバックアップを取っておくことをおすすめいたします。

● 音楽を聴くための準備

音楽を聴くためには、音楽ファイルの作成が必要です。
音楽ファイルの作成方法は、大きく分けて次の2通りあります。
いずれかの方法で、音楽ファイルを準備してください。

・ミニコンポやラジカセなどの外部オーディオ機器からの曲を直接本機に録音する方法（ダイレクトレコーディング）

ダイレクトレコーディングについては、第3章「外部機器からの曲を録音する（ダイレクトレコーディング）」（35ページ）をご覧ください。

・お手持ちのCDなどの曲をパソコン上に取り込み、本機へ転送する方法

転送方法については、「2-2. 音楽ファイルを転送する」（→26ページ）をご覧ください。

お知らせ

CDからパソコンへの音楽の取り込みかたについては、同梱の『デジタルオーディオプレーヤー クイックガイド』をご覧ください。

ビットレートの設定について

デジタルオーディオは取り込み時に信号を圧縮できるため、本機で多くの楽曲を収録することができます。

※ WMA 1 曲 4 分　ステレオ時の目安です

容量（型番） ビットレート	256MB XA-MP20	512MB XA-MP50	1GB XA-MP100
64kbps	120 曲	250 曲	500 曲
128kbps	60 曲	120 曲	250 曲
非圧縮	6 曲	12 曲	24 曲

ビットレートを高くすると高音質になりますが、データが大きくなるため収録曲数が減ります。

● 音楽データの取り込みについて

- 音楽 CD をパソコンに取り込むときは、パソコン上で設定します。くわしくは、同梱の『デジタルオーディオプレーヤー クイックガイド』の 4 ページまたは 12 ページをご覧ください。
- 外部機器から直接録音（ダイレクトレコーディング）をするときは、本機の「設定モード」で設定します。くわしくは「録音設定をする」（→ 62 ページ）をご覧ください。

お使いのパソコン動作環境を確認する

お使いのパソコン動作環境を確認し、該当するページをご覧ください。

WindowsXP/Me/2000をお使いの場合

「2-2. 音楽ファイルを転送する」（→ 26 ページ）（USB ドライバのインストールは不要です。）

Windows98SEをお使いの場合

ドライバのインストールが必要です。「2-4. USB ドライバをインストールする」（→ 32 ページ）をご覧ください。
次に、「2-2. 音楽ファイルを転送する」（→ 26 ページ）をご覧ください。

お知らせ

パソコンの Windows の確認方法は、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [システム] または、[スタート] → [コントロールパネル] → [パフォーマンスとメンテナンス] → [システム] を参照してください。

本機を動作する上で必要なパソコンのシステム構成

本機を動作する上で必要なパソコンのシステム構成は、以下の通りです。

● Microsoft Windows 98SE/Me/2000/XP

・CD-ROM ドライブ
（CD から音楽データを取り込んだり、Windows98SE 用のドライバをインストールする場合に使用します。）
・Pentium Ⅱ 233 MHz 以上
・メモリ： 64 MB 以上
・HDD： 100 MB 以上の空き容量
（音楽ファイルを保存するにはより大容量が必要です。）
・USB ポート
・Windows Media Player 9 以上

※ 上記環境のすべてのパソコンについての動作を保証するものではありません。

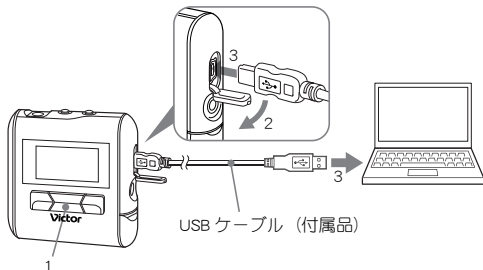
2-2. 音楽ファイルを転送する

パソコンに接続して、音楽ファイルを本機に転送します。

お知らせ

- **WindowsXP/Me/2000 の場合は、付属の CD-ROM を用いての USB ドライバのインストールは不要です。**
- Windows98SE の場合は、「2-4. USB ドライバをインストールする」（→32 ページ）をご覧のうえ、USB ドライバをインストールしてください。

パソコンに接続する

パソコンの USB ポートと接続します。

1. **本機の電源が切れていることを確認します。**

（■ ボタンを押し続けて電源を切ります。）

2. **本機の USB 端子のゴムキャップを開きます。**

3. **付属の USB ケーブルで本機とパソコンの USB ポートを接続します。**

⇒本機の表示窓に「READY」が表示され、接続が完了します。

音楽ファイルを転送する

MP3 や WMA 形式の音楽ファイルをパソコンから本機へ転送します。

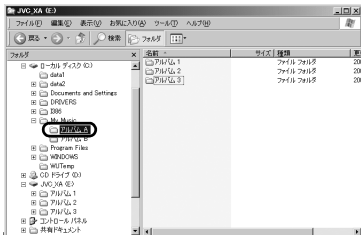
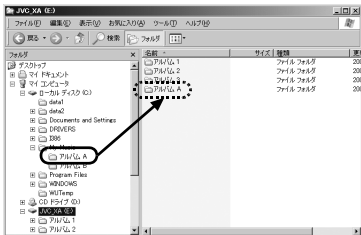
お知らせ

- 一般的な MP3 ファイルや WMA ファイルを転送する場合は、エクスプローラを利用します。
- WMA-DRM などの特殊なファイルを転送する場合は、Windows Media Player を利用してください。Windows Media Player を利用した転送方法については、同梱の『デジタルオーディオプレーヤー クイックガイド』をご覧ください。

例として、ここでは「My Music」にある音楽ファイルの転送手順について、エクスプローラを用いて説明します。

1. パソコン上でエクスプローラを起動します。

2. 本機を示すドライブを左クリックします。(ここでは、JVC_XA(E:))

3. 転送したい音楽ファイルやフォルダを左クリックします。

4. 左クリックしたまま、本機の内容を示す右側のウィンドウにドラッグしドロップします。

ファイル転送中は本機の表示窓に「WRITING」と表示されます。「READY」が表示されると転送は完了します。

転送が完了したら、パソコンから本機を取り外します。

お知らせ

- WMA-DRMファイルはエクスプローラを用いて転送をすると再生できません。Windows Media Player 9以上を利用して転送してください。
- エクスプローラの詳細については、Windows エクスプローラのヘルプをご参照ください。
- 本機は USB メモリとしても使用できますので、音楽以外のファイルもコピーできます。

パソコンから取り外すとき

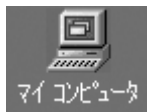
本機をパソコンから取り外すときは、次の手順で取り外してください。

● WindowXP/Me/2000 の場合

1. タスクバーの[ハードウェアの安全な取り外し]アイコンを左クリックし、画面の指示にしたがって、パソコンから本機を取り外します。

2. 本機から USB ケーブルを取り外します。

● Windows98SE の場合

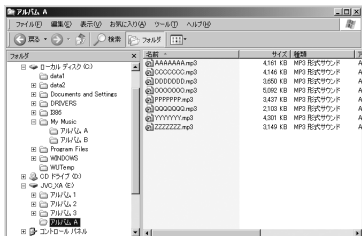
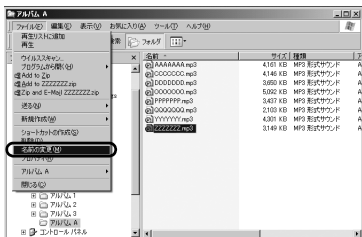
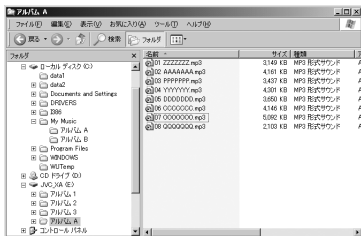
1. [マイコンピュータ]から[リムーバブルディスク]を選択し、右クリックをした後、[取り出し]を選択します。

2-3. 音楽ファイルの再生順序を変更するには

音楽ファイルはJIS コード順(おおむねアルファベット順)に再生されます。本機には再生順序を変更する機能はありません。音楽ファイルの転送後、再生順序が変わってしまったときなどは、パソコンを使って音楽ファイル名の先頭に、「01」、「02」などの数字を付加した名前に変更すると再生順序を変更できます。

1. 本機とパソコンを接続します。

(接続のしかたは、→ 26 ページをご覧ください。)

2. パソコン上のエクスプローラを起動します。

3. 本機を示すドライブを左クリックし、転送された内容を参照します。(ここでは、JVC_XA(E:))

4. 変更したい音楽ファイルを選択し、[ファイル] メニューから [名前の変更] を選択します。

5. 曲名の先頭に「01 ZZZZZZZ」、「02 AAAAAAA」などの数字を付加し、ファイル名を変更します。

お知らせ

- 再生される曲の順序は「ナビゲートモード」で確認できます。
  ナビゲートモードについては、「5-5. ナビゲート機能を使用する」（→ 75 ページ）をご覧ください。
- CD からパソコンに曲を取り込むときに自動的にトラック番号を「01」、「02」とつけることができます。くわしくは、同梱の『デジタルオーディオプレーヤー クイックガイド』の 4 ページまたは 12 ページの「ヒント」をご参照ください。
- 数字を付加するときは必ず「01」、「02」・・・「09」、「10」、「11」・・・などとし、数字の桁数を合わせてください（ここでは例として 2 桁にしています）。「1」、「2」・・・とすると、曲数が 10 曲以上あるアルバムなどでは正しい順序で再生できません。

2-4. USBドライバをインストールする

Windows98SE の場合は、パソコンに USB ドライバをインストールします。WindowsXP/Me/2000 の場合は、USB ドライバのインストールは不要です。

ゲームソフトやウィルス対策ソフトなどのプログラムが稼動している場合は、終了させてください。

1. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
（この時点ではウィザード画面は表示されません。）

2. 本機の電源を切り、付属の USB ケーブルでパソコンへ接続します。
（接続のしかたは、26 ページをご覧ください。）
⇒[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示されます。

3. [次へ] ボタンをクリックします。

4. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

5. [CD-ROMドライブ]が選択されていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。

⇒検索開始画面が表示されます。

6. [次へ] ボタンをクリックします。

⇒インストールが完了すると、完了画面が表示されます。

7. [完了] ボタンをクリックします。

インストールは完了です。
パソコンを再起動してください。

パソコンから本機へ音楽ファイルを転送できる状態となります。
「2-2. 音楽ファイルを転送する」の「パソコンに接続する」(→ 26 ページ)へお戻りください。

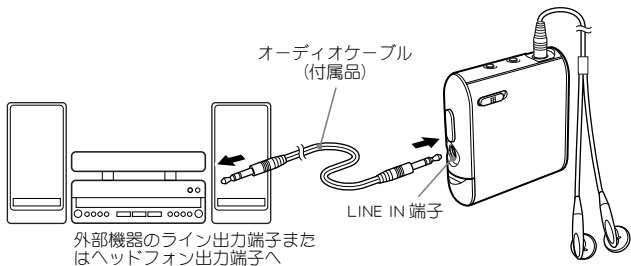
第３章外部機器からの曲を録音する（ダイレクトレコーディング）

3-1. 外部機器からの曲を録音する

ミニコンポやラジカセなどの外部オーディオ機器で再生した曲を本機で直接、録音できます。これを「ダイレクトレコーディング」と呼びます。パソコンを使わずに、手軽に曲を録音できます。

曲を録音する（ダイレクトレコーディング）

CDプレイヤーなどの外部機器と本機を付属のオーディオケーブルで接続し、曲を録音します。

● 外部機器を接続する

本機の LINE IN 端子と外部機器を付属のオーディオケーブルで接続します。

● 外部機器の出力レベルを調節する

- 外部機器のヘッドフォン端子から録音する場合は、外部機器側の音量を調節します。
  くわしくは、「外部機器のヘッドフォン端子から録音するときの注意」（→ 39 ページ）をご覧ください。
- 外部機器のライン出力端子から録音する場合は、レベル調節は必要ありません。

● 録音する

本機を「外部録音」モードにし、曲を録音します。

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、外部録音（ ）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

4. 「Recording」と表示されるまで、REC ボタンを押しつづけます。
キャンセルする場合は MENU ボタンを押します。

録音 :REC
キャンセル :MENU

⇒録音待機状態（カウンターが停止）になります。

5. 外部機器でミュージックソースを再生します。
⇒音を自動検出して録音がはじまり、A.TRK（オートトラック）の設定が ON のときは、各曲ごとにトラック番号が振られます。

6. 曲が終わったら [■] ボタンを押して、録音を停止します。

7. MENU ボタンを押します。
⇒メインメニューに戻ります。

お知らせ

・録音時、ビットレートと A.TRK（オートトラック）を設定することができます。くわしくは、「録音設定をする」（→ 62 ページ）をご覧ください。

録音した音楽ファイルについて

● 録音した音楽ファイルを確認する

録音した音楽ファイルは、本機の「LINE」フォルダに MP3 形式で保存されます。（「LINE」フォルダは、ダイレクトレコーディング時に自動的に生成されます。）
「LINE」フォルダを表示するには、再生時にナビゲート機能を利用します。ナビゲート機能については、「5-5. ナビゲート機能を使用する」（→ 75 ページ）をご覧ください。

● 録音した音楽ファイルをパソコンへコピーする

外部機器から録音した音楽ファイルは、USB ケーブルで接続したパソコンへコピーすることができます。

1. パソコン上でエクスプローラを起動します。

2. 「JVC-XA」(Windows98SE の場合は本機に対応する「リムーバブルディスク」）を選び、「LINE」フォルダ内からコピーする音楽ファイルをクリックし、パソコンの任意の場所へドラッグ&ドロップします。

外部出力機器側での出力レベル設定について

● ALC（オートレベルコントロール）について

本機のダイレクトレコーディング回路には録音レベルを自動調節する機能はついておりませんが、録音時のひずみ（音割れ）をおさえるためのALC（オートレベルコントロール）機能がついております。
外部の再生機器からの出力レベルが大きすぎるときにALC機能が自動的に働き、録音レベルを抑えてひずみを減らすことができます。

● 外部機器のヘッドフォン端子から録音するときの注意

録音レベルは、外部機器側の音量を変えることにより調節します。次の要領であらかじめ試し録音をし、適正な録音レベルに調節してください。

1. 本機にヘッドフォンを差し込みます。
（ヘッドフォンにて外部機器側の音量を確認できます。）

2. 外部機器側の音質設定（イコライザーや低音増強機能など）をオフ（フラット）にします。
外部機器で設定した音質でそのまま録音されるので、本機での再生時にサウンドモード（イコライザー）を設定していると二重に音質が補正され、不自然な音質になります。
※ 外部機器の音質設定については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。

3. 外部機器側の音量を調節します。普段お使いの音量より大きめに設定します。

4. ヘッドフォンで録音レベルを確認します。
録音レベルの確認では、次の点に注意してください。
・音量が小さい場合、音を自動検出できず録音が開始されません。（録音設定のA.TRK（オートトラック）機能がONの場合）
・音量が小さい場合、録音した音も小さくなります。
・音量が小さい場合、録音した曲が分割されたり、音飛びのように音が途切れたりします。（録音設定の A.TRK（オートトラック）機能がONの場合）
・音量が大きすぎて ALC の制御範囲を超える場合、録音した音がひずみます。

外部機器の音量を上げたときは、本機での録音が終わりましたら音量を適正値まで下げてください。思わぬ大きな音量で人体や機器に悪影響を及ぼす恐れがあります。

外部機器のライン出力端子から録音する場合は、出力レベル、音質ともに固定されるので外部機器側でのレベル調節は必要ありません。

お知らせ

ダイレクトレコーディング時の電池寿命について

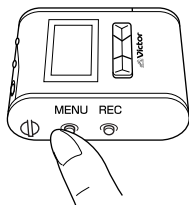
- CD アルバムを全曲録音するなど長時間連続で録音する場合、途中で電池容量が不足して停止（「バッテリーがありません」が表示）することがあります。ダイレクトレコーディングは多くの電力を消費しますので、誤動作を防止するため他のモードに比べ早めに停止するようになっております。長時間連続録音するときはなるべく新しい電池をご使用ください。
- ダイレクトレコーディングで「バッテリーがありません」と表示し停止した状態の電池でも、再生には多少使えます。
- 「バッテリーがありません」の表示は、ダイレクトレコーディングにて電池が録音可能な容量でなくなったときに約 5 秒間表示されます。
- ダイレクトレコーディング時の電池寿命は、新品のアルカリ乾電池で約 2.5 時間です。（ご使用の条件により異なります。）

第４章 音楽を聴く

4-1. 音楽ファイルを再生する

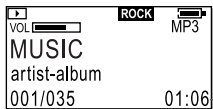
音楽ファイルを再生して聴くことができます。
音楽を聴く前に、ボリューム+/-ボタンでボリュームを調整してください。

再生するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。

⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、ミュージックモード（♪）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。
⇒音楽再生画面が表示されます。

4. 再度、[▶/II] ボタンを押します。

曲再生時間（停止時）
再生経過時間（再生時）

⇒曲の再生がはじまります。

● 停止するには
再生中に、[■] ボタンを押します。

● 一時停止するには

再生中に [►/II] ボタンを押します。

● 曲を選択するには

再生中または停止中に、[|◄◄] または [►►|] ボタンを押します。

● 早戻し、早送りするには

再生中、[|◄◄] または [►►|] ボタンを押し続けます。

お知らせ

- 音楽ファイルは JIS コード順（おおむねアルファベット順）に再生されます。再生順序を変えるには、「2-3. 音楽ファイルの再生順序を変更するには」（→ 30 ページ）をご覧ください。
- 音楽ファイルが保存されていない場合は、「ファイルがありません」と表示されます。
- 曲の停止中、または再生中に電源を切ったときは、後で再度電源をオンにして再生する際に、再生していた曲の最初から再生が始まります。
- 本機を操作しない状態が約 10 秒間続くと、メニューモードはメニューを表示する前の表示に戻ります。
- 再生時に、ドラッグ&ドロップ転送された WMA-DRM ファイルを再生しようとすると以下の画面が表示され、次の曲にスキップします。

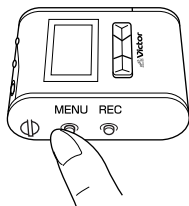
DRM
PROTECTED

- 曲の再生は、「ナビゲート機能」を使ってより便利に行うことができます。「ナビゲート機能」の使い方は、「5-5. ナビゲート機能を使用する」（→ 75 ページ）をご覧ください。
- 表示言語には、ID3 タグ（バージョン 1.0/ 1.1、バージョン 2.3）、WMA タグが表示可能です。ID3 タグ、WMA タグとは MP 3、WMA ファイルに記録される、曲名・アーティスト名などのデータのことです。

第５章　さまざまな機能

5-1. 設定モードを利用する

メインメニュー画面で設定（ ）を選択することでさまざまな機能の設定をすることができます。設定モードの基本的な操作手順は、次のようになります。

1. **電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。**

⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

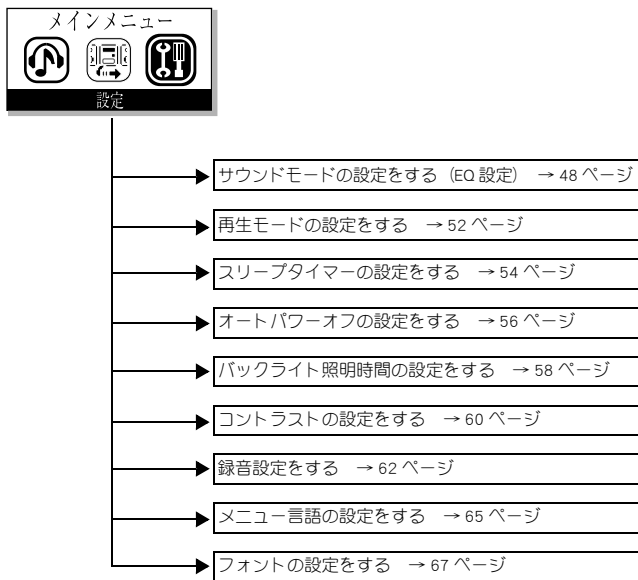
2. **[|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、設定（ ）を選択します。**

3. **[▶/II] ボタンを押し、決定します。**

⇒設定メニューが表示されます。

4. **必要な設定を行います。**

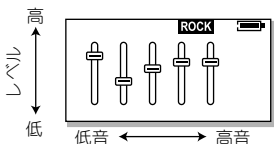
（くわしくは、48 ページ～ 68 ページをご覧ください。）

● 設定モードで設定できる項目

各設定のしかたについては、それぞれの説明ページをご覧ください。

お知らせ

・本機で行った各種設定は電源を切るときに記録されます。（電池を抜いて電源を切った場合は記録されません）。設定値を変更したときは一度電源を切り、設定内容を記録してください。

サウンドモード（EQ）の設定をする

6 種類のサウンドモード、または自分で作成したカスタムサウンドモード（1 種類）の中からお好みのサウンドモードを 1 つ選択できます。

● お好みのサウンドモードを選択するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

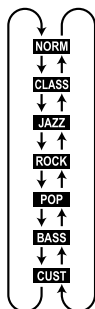
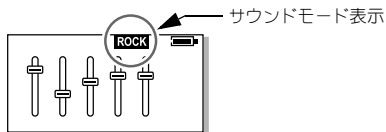
2. [◀◀] または [▶▶] ボタンを押し、設定（ ）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

4. [◀◀] または [▶▶] ボタンを押し、「EQ 設定」を選択します。

5. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

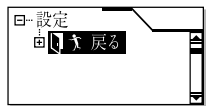
6. [◀◀] または [▶▶] ボタンを押し、お好みのサウンドモードを選択します。

【サウンドモードの種類】

NORM	ノーマル	サウンドモードの効果はありません。
CLASS	クラシック	クラシック向きです。高音が少し落とされます。
JAZZ	ジャズ	ジャズ向きです。低音、高音が若干強調されます。
ROCK	ロック	ロック向きです。低音、高音が強調されます。
POP	ポップ	ポップ向きです。ボーカルのある中音域が強調されます。
BASS	バス	低音が強調されます。
CUST	カスタマイズ	ユーザーがお好みのサウンドモードを作成できます。

サウンドモードを自分で作成するときは「サウンドモードを自分で作成するには（カスタマイズ）」（→ 50 ページ）へ進んでください。

7. ►/II ボタンを押し、決定します。

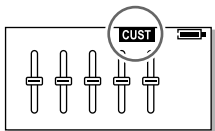
⇒設定メニューに戻ります。

8. MENU ボタンを押すか、|◄◄ または ►►| ボタンを押して「戻る」を選択し、►/II ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

9. 電源を切ります。

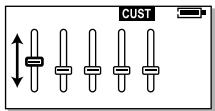
⇒設定した内容が記録されます。

● サウンドモードを自分で作成するには（カスタマイズ）

1. 「EQ 設定」画面で [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、「CUST」を選択します。

2. MENU ボタンを押します。
⇒一番低音側のインジケータが強調表示されます。

3. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、編集する周波数を選択します。

4. [▶/II] ボタンを押し、編集する周波数を決定します。
⇒インジケータが点滅します。

5. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、レベルを設定します。

6. [▶/II] ボタンを押します。
⇒設定値が設定されます。

7. 設定が完了するまで、手順 3 ～ 6 を繰り返します。

8. 設定が完了したら、MENU ボタンを押します。
⇒インジケータの強調表示が消えます。

9. [▶/II] ボタンを押します。
⇒設定メニューに戻ります。

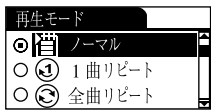
10.MENU ボタンを押すか、**|◀◀** または **▶▶|** ボタンを押して「戻る」を選択し **▶/II** ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

11.電源を切ります。

⇒設定した内容が記録されます。

再生モードの設定をする

音楽ファイルをいろいろな方法で再生できます。

【再生モードの種類】

ノーマル
通常の再生です。

1 曲リピート
1 曲を繰り返し演奏します。

全曲リピート
全曲を繰り返し演奏します。

ランダム
全曲をランダムに演奏します。

ランダムリピート
全曲を繰り返してランダムに演奏します。

イントロ再生
各曲の出だしを 10 秒間だけ演奏します。

● 再生モードを選択するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、設定（ ）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

4. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、「再生モード」を選択します。

5. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

6. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、再生モードの種類を選択します。

7. [▶/II] ボタンを押します。

⇒再生モードが設定され、設定メニューに戻ります。

8. MENU ボタンを押すか、[|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押して「戻る」を選択し [▶/II] ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

9. 電源を切ります。

⇒設定した内容が記録されます。

スリープタイマーの設定をする

音楽ファイルの再生中やダイレクトレコーディング中、スリープタイマーで設定した時間が経過すると、本機の電源が自動的に切れます。設定時間は 15 分、30 分、45 分、60 分、OFF です。工場出荷時は「OFF」に設定されています。

● スリープタイマーを設定するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. |◀◀ または ▶▶| ボタンを押し、設定（ ）を選択します。

3. ▶/II ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

4. |◀◀ または ▶▶| ボタンを押し、「スリープタイマー」を選択します。

5. ▶/II ボタンを押し、決定します。

6. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、時間を選択します。

7. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

⇒タイマー時間が設定され、設定メニューに戻ります。

8. MENU ボタンを押すか、[|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押して「戻る」を選択し [▶/II] ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

お知らせ

- スリープタイマー設定は、1 回動作するとキャンセルされます。
- スリープタイマー設定中は、ディスプレイ右上にアイコン（◷）が表示されます。

オートパワーオフの設定をする

一定時間本機を操作しない場合、オートパワーオフで設定した時間が経過すると、本機の電源は自動的に切れます。設定時間は 2 分、5 分、10 分、OFF です。工場出荷時は「OFF」に設定されています。

● オートパワーオフを設定するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、設定（ ）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

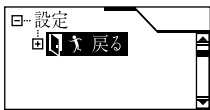
4. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、「オートパワーオフ」を選択します。

5. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

6. [⏮] または [⏭] ボタンを押し、時間を選択します。

7. [▶/II] ボタンを押します。

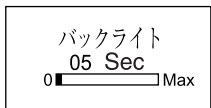
⇒オートパワーオフが設定され、設定メニューに戻ります。

8. MENU ボタンを押すか、[⏮] または [⏭] ボタンを押して「戻る」を選択し [▶/II] ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

9. 電源を切ります。

⇒設定した内容が記録されます。

バックライト照明時間の設定をする

設定した時間、無操作状態が続くと、バックライト照明が消灯します。設定時間は 0 ～ 55 秒 (5 秒単位)、Max (2 時間) です。工場出荷時は「5 秒」に設定されています。

● バックライト照明時間を設定するには

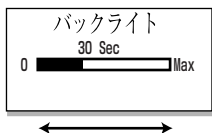
1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、設定（ ）を選択します。

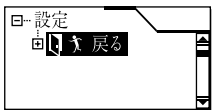
3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

4. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、「バックライト」を選択します。

5. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

6. **⏮** または **⏭** ボタンを押し、時間を選択します。

7. **▶/II** ボタンを押します。

⇒バックライト照明時間が設定され、設定メニューに戻ります。

8. MENU ボタンを押すか、**⏮** または **⏭** ボタンを押して「戻る」を選択し **▶/II** ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

9. 電源を切ります。

⇒設定した内容が記録されます。

コントラストの設定をする

ディスプレイのコントラストを調節します。

● コントラストを設定するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. |◀◀ または ▶▶| ボタンを押し、設定（ ）を選択します。

3. ▶/II ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

4. |◀◀ または ▶▶| ボタンを押し、「コントラスト」を選択します。

5. ▶/II ボタンを押し、決定します。

6. |◀◀ または ▶▶| ボタンを押し、レベルを選択します。

7. ►/II ボタンを押します。

⇒コントラストが設定され、設定メニューに戻ります。

8. MENU ボタンを押すか、 |◄◄ または ►►| ボタンを押して「戻る」を選択し ►/II ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

9. 電源を切ります。

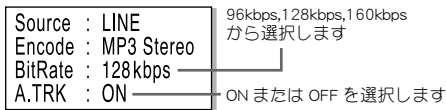
⇒設定した内容が記録されます。

録音設定をする

外部機器からの曲を録音（ダイレクトレコーディング）する場合のビットレートと A.TRK（オートトラック）を設定します。

Source : LINE
Encode : MP3 Stereo
BitRate : 128kbps
A.TRK : ON

96kbps,128kbps,160kbps から選択します

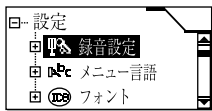
ON または OFF を選択します

初期設定は、ビットレート「128kbps」、A.TRK「ON」となっています。設定を変更する場合は、本設定を行ってください。

● 録音設定をするには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、設定（ ）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

4. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、「録音設定」を選択します。

5. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

6. [▶▶I] ボタンを押し、設定したい項目を選択します。

[▶▶I] ボタンを押すごとに、BitRate ⇔ A.TRK と切り替わります。

```
Source  : LINE
Encode  : MP3 Stereo
BitRate : 128kbps
A.TRK   : ON
```

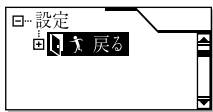
7. [▶/II] ボタンを押し、希望の設定値を選択します。

[▶/II] ボタンを押すごとに、設定値が切り替わります。

8. 設定が完了するまで、手順 6 ～ 7 を繰り返します。

9. 設定が完了したら、希望の設定値を表示した状態で MENU ボタンを押します。

⇒設定メニューに戻ります。

10. MENU ボタンを押すか、[I◀◀] または [▶▶I] ボタンを押して「戻る」を選択し [▶/II] ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

11. 電源を切ります。

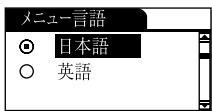
⇒設定した内容が記録されます。

お知らせ

・ビットレートとは？
圧縮されたデータが 1 秒あたりどのくらいの情報量で表現されているかをあらわすものです。
ビットレートの値が大きくなるほど高音質になります。また、高音質になるほどデータ量が大きくなるため、収録できる曲数が少なくなります。

・A.TRK（オートトラック）機能とは？
外部機器からの曲を録音（ダイレクトレコーディング）する場合に設定します。ON にすると曲の始まりと終わりを自動的に検出し、曲ごとにトラック番号を振っていきます。再生時に CD のようなスピーディな選曲が可能となります。
曲がはじまると録音を開始し、曲が終わると無音を感知して一時停止します。OFF にした場合は曲の検出は行われず、無音状態になっても録音は停止しません。
無音部分が 3 秒以上続くと曲の変わり目として区切られる設定のため、曲間が短い場合や、曲間に雑音が多い場合は区切られないことがあります。また、音が小さい部分や無音部分があると、曲中でも区切られてしまうことがあります。
これらの場合には、A.TRK を OFF にして 1 曲ずつ録音してください。
A.TRK 機能を正しく動作させるために、外部機器の出力レベルを適正に設定してください。くわしくは、「外部出力機器側での出力レベル設定について」（→ 39 ページ）をご覧ください。

メニュー言語の設定をする

メニュー表示で使用する言語を設定します。日本語と英語から選択します。工場出荷時は「日本語」に設定されています。

● メニュー言語を設定するには

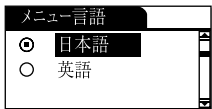
1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. ⏮ または ⏭ ボタンを押し、設定（🔧）を選択します。

3. ▶/II ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

4. ⏮ または ⏭ ボタンを押し、「メニュー言語」を選択します。

5. ▶/II ボタンを押し、決定します。

6. ⏮ または ⏭ ボタンを押し、言語の種類を選択します。

7. ►/II ボタンを押します。

⇒メニュー言語が設定され、設定メニューに戻ります。

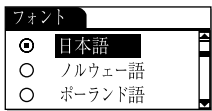
8. MENU ボタンを押すか、 I◄◄ または ►►I ボタンを押して「戻る」を選択し ►/II ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

9. 電源を切ります。

⇒設定した内容が記録されます。

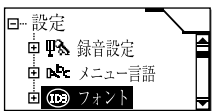
フォントの設定をする

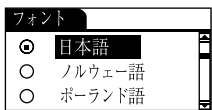
ファイル名と ID3 タグで使用されるフォントの設定をします。27 言語から選択できます。工場出荷時は「日本語」に設定されています。

● フォントを設定するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。
⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

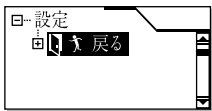
2. [⏮] または [⏭] ボタンを押し、設定（🔧）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。
⇒設定メニューが表示されます。

4. [⏮] または [⏭] ボタンを押し、「フォント」を選択します。

5. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

6. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、フォントの種類を選択します。

7. [▶/II] ボタンを押します。

⇒フォントが設定され、設定メニューに戻ります。

8. MENU ボタンを押すか、[|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押して「戻る」を選択し [▶/II] ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

9. 電源を切ります。

⇒設定した内容が記録されます。

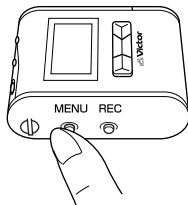
お知らせ

- ID3 タグについては「4-1. 音楽ファイルを再生する」のお知らせ（→ 43 ページ）を参照してください。

5-2. ファイルを削除する

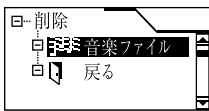
音楽ファイルを削除します。

ファイルを削除するには

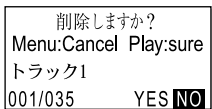
1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。

⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、ファイル削除（ ）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。
⇒削除メニューが表示されます。

4. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、「音楽ファイル」を選択します。

5. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

6. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、削除するファイルを選択します。

削除しますか？
Menu:Cancel Play:sure
トラック1
001/035 YES NO

7. [■] ボタンを押し、「YES」または「NO」を選択します。

[■] ボタンを押すごとに、YES ⇔ NO と切り替わります。

ファイルの削除をキャンセルする場合は「NO」を選択します。

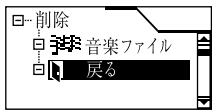
8. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

⇒「削除しました」と表示されます。削除できないリードオンリーファイルの場合は、「オペレーション失敗」と表示されます。この場合は、USB 接続したパソコン側から削除してください。

9. 削除したい音楽ファイルの削除が完了するまで、手順 6 ～ 8 を繰り返します。

10. 削除が完了したら、本機側面の MENU ボタンを押します。

⇒削除メニューに戻ります。

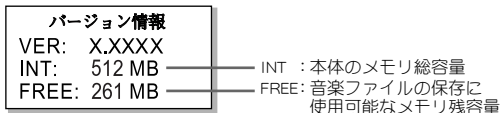
11. MENU ボタンを押すか、[|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押して「戻る」を選択し [▶/II] ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

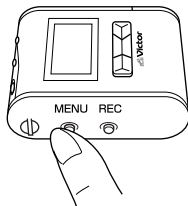
お知らせ

・フォルダ内のすべてのファイルを削除するとナビゲートモードでそのフォルダは表示されなくなりますが、本機内に記憶されたままとなります。フォルダは USB ケーブルで接続したパソコンから削除することができます。

5-3. バージョン情報を確認する

本機のファームウェアバージョンとステータスを表示します。

バージョン情報
VER:　X.XXXX
INT:　512 MB ―― INT：本体のメモリ総容量
FREE:　261 MB ―― FREE：音楽ファイルの保存に使用可能なメモリ残容量

バージョン情報を表示するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。

⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [I◀◀] または [▶▶I] ボタンを押し、バージョン情報（ ）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

⇒バージョン情報が表示されます。

4. MENU ボタンを押します。

⇒メインメニューに戻ります。

● ファームウェアのバージョンアップ

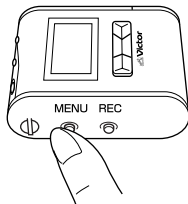
本機のファームウェアのバージョンアップ情報については弊社のホームページをご覧ください。

http://www.jvc-victor.co.jp/

5-4. 初期化をする

設定モード（「5-1. 設定モードを利用する」（→ 46 ページ～ 68 ページ）で設定したすべての内容を初期化します。（音楽ファイルは消えません。）

設定を初期化するには

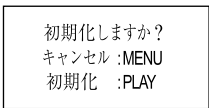
1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。

⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、設定初期化（1⇒0）を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

4. [▶/II] ボタンを押し、設定の初期化を実行します。

初期化をキャンセルする場合は、本機の MENU ボタンを押します。

初期化しますか？
キャンセル :MENU
初期化 :PLAY

⇒「設定を初期化しました」と表示され、設定した内容がすべて初期化され、メインメニューに戻ります。

5. 電源を切ります。

⇒初期化によって以下の内容が工場出荷時の設定になり、記録されます。（音楽ファイルは消えません。）

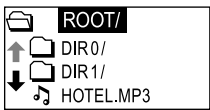
設定項目	工場出荷時の設定
EQ 設定	ノーマル
再生モード	ノーマル
スリープタイマー	OFF
オートパワーオフ	OFF
バックライト	5 Sec
コントラスト	工場出荷時の設定レベル
録音設定	BitRate:128kbps/A.TRK : ON
メニュー言語	日本語
フォント	日本語

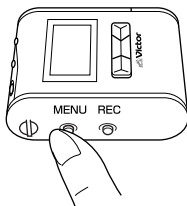
お知らせ

- 本機にはフォーマット機能はありません。フォーマットする場合は USB 接続をして、パソコン側から行ってください。(FAT32 形式で実行してください。)音楽ファイルが消え、設定項目が工場出荷時の設定(上記)になり記録されます。
- WMA-DRM ファイルが本機に転送されている場合、フォーマットするときは事前にライセンスのバックアップをしておくことをお勧めします。必要に応じて Windows Media Player 上で、[ツール]→[ライセンスの管理]を選択し、バックアップ作業を行ってください。
  ([変更] ボタンをクリックし、バックアップファイルの保存場所を選択し、[今すぐバックアップ] ボタンをクリックします。)
  復元するときは、バックアップした保存場所を選択し、[今すぐ復元] ボタンをクリックします。

(画面例)

5-5. ナビゲート機能を使用する

音楽ファイル（♫）とそれを収納しているフォルダの階層をツリー形式で表示します。
聞きたい音楽ファイルを検索し再生できます。

音楽ファイルを検索するには

1. 電源が入った状態で本機側面の MENU ボタンを押します。

⇒本機の表示窓にメインメニューが表示されます。

2. [|◀◀] または [▶▶|] ボタンを押し、ナビゲート ( ) を選択します。

3. [▶/II] ボタンを押し、決定します。

4. [|◀◀] または [▶▶|] ボタン、[▶/II] ボタン、[■] ボタンを押し、目的の音楽ファイルを検索します。

各ボタンの動作内容は次のとおりです。

操作ボタン	動作内容
⏮　⏭	カーソルが縦方向に移動します。選択したフォルダ内の各ファイル、または各フォルダ間をスクロールします。
►/II	目的のフォルダにカーソルを移動し、►/II ボタンを押すとフォルダ内が表示され、フォルダ内の曲を選択できます。
■	カーソルがフォルダ内の曲にあるとき、■ ボタンを押すとフォルダが閉じてフォルダがある階層が表示されます。

5. 目的のファイルにカーソルを移動したら ►/II ボタンを押し、再生します。

● ナビゲート機能を途中で終了したい場合は、本機の MENU ボタンを押します。

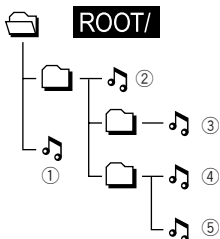
⇒メインメニューに戻ります。

お知らせ

・ナビゲートモードにて Windows Media Player の転送モード以外で転送された WMA-DRM ファイルを検索すると、曲名表示はされますが、再生しようとすると以下の画面が表示され、その後次の曲にスキップします。

DRM
PROTECTED

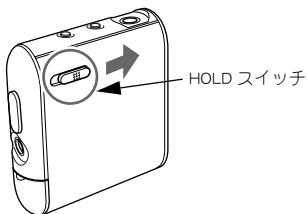
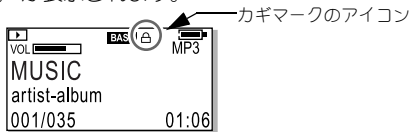
ミュージックモードでの再生順序について

ミュージックモードで通常の再生をした場合、再生される順序は次の図のように上位階層から下位階層の順序になります。

お知らせ

・フォルダは最大 50 個まで作成できます。
・Windows Media Player 10 を使用して音楽ファイルを作成し本機に転送すると、ファイル管理のためアーティスト名、アルバム名などがついた複数のフォルダが作成されます。メモリ残容量に余裕があっても、フォルダ数が 50 個を超えるとフォルダ数制限により、音楽ファイルをそれ以上転送できなくなりますのでご注意ください。
・フォルダの階層は最上位階層のフォルダを 1 とすると 8 階層まで認識できます。8 階層を超えるとファイルを正常に認識できません。
・本機に転送した際に曲順が入れ替わってしまうときは、パソコン側で「01xxx」「02xxx」というようにファイル名の先頭に数字をつけてください。再生順序を変更するには、「2-3. 音楽ファイルの再生順序を変更するには」（→ 30 ページ）をご覧ください。
・本機で取り扱うことが可能なファイル（表示や操作が可能な WMA、MP3 ファイル）は合計で 550 ファイルです。これを超えるファイル数については動作保証できません。

5-6. ボタンをロックする

HOLD 機能によりすべての操作ボタンをロックすることができます。

1. 本機背面の HOLD スイッチを矢印の方向にスライドします。

⇒すべての操作ボタンがロックされ、ディスプレイ右上にカギマークのアイコン（🔒）が表示されます。

2. ロックを解除するときは、HOLD スイッチを左にスライドします。

お知らせ

・ロックした状態で本機の電源を入れると、初期メッセージ「DIGITAL AUDIO PLAYER」に続いて「HOLD」が表示され、電源が自動的に切れます。その場合、HOLD スイッチを左にスライドしてロックを解除してからお使いください。

第６章　お問い合わせ・
アフターサービス

6-1. お困りのときは

おや？故障かなと思ったら…
修理を依頼される前に、もう一度お確かめください。

こんなときは	次の点を確認してください
動作しない	・HOLD スイッチは OFF になっていますか。 ・本機はマイクロコンピュータを使って制御されています。何らかの理由によりボタンを押しても正しく動作しない場合は、電池を取り出し、しばらくたってから再度挿入してください。 ・電池が消耗している場合があります。電池を交換してください。
音が出ない（雑音が多い）	・ヘッドフォンが本機に確実に差し込まれていますか。 ・ヘッドフォンのプラグが汚れていませんか。 ・携帯電話やテレビなどの装置から離れた場所でお使いください。 ・音量を上げてください。
突然動作しなくなる	・電池を取り出し、10 秒ほどしてから再度挿入してください。
ディスプレイが暗すぎる / 明るすぎる	・コントラストを調整してください。（「コントラストの設定をする」→ 60 ページ）
自動的に電源が切れる	・オートパワーオフ機能が設定されています。（「オートパワーオフの設定をする」→ 56 ページ）（故障ではありません。）
パソコンが本機を認識しない	・Windows98SE をオペレーティングシステムに使用している場合は、必ず付属の CD-ROM から USB ドライバをパソコンにインストールしてください。（「2-4. USB ドライバをインストールする」→ 32 ページ）
ドライバ（CD-ROM）がインストールできない	・パソコンの Windows のバージョンをご確認ください。 Windows 98SE 以外ではドライバのインストールは不要です。

こんなときは	次の点を確認してください
電池のカバーが開閉しづらい	・本機の電池カバーはスライド機構つきの開閉方式になっております。開けるときはカバーを真横にスライドしてから開けてください。閉めるときはカバーを引き出したまま倒し、その後、真横にスライドして完全に閉めてください。詳細は別紙「電池カバーの開閉について」をご覧ください。
外部機器のヘッドフォン端子からダイレクトレコーディングをしたら再生音が小さい	・再生する外部機器側の音量を上げてください。（「外部出力機器側での出力レベル設定について」→ 39 ページ）
転送後、曲順がばらばらになってしまう	・音楽ファイルの先頭に０１、０２・・・などと数字をつけると並び替えができます。（「2-3. 音楽ファイルの再生順序を変更するには」→ 30 ページ）
仕様どおりの曲数が入らない	・音楽ファイルの形式やビットレート、曲の長さにより収録可能曲数は大きく変わります。
メモリ容量に充分空きがあるのに曲が転送できない	・転送によりフォルダ数などの制限を超えると容量に空きがあってもそれ以上は転送できません。（「ミュージックモードでの再生順序について」→ 77 ページ）

6-2. 仕様

本機の仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。

モデル名	XA-MP100	XA-MP50	XA-MP20
形式	デジタルオーディオプレーヤー		
内蔵メモリサイズ	1 GB	512 MB	256 MB
ディスプレイ	バックライト付き LCD（4 ラインディスプレイ）		
ダイレクト録音	MP3 方式		
音楽再生フォーマット	MP3/WMA/WMA-DRM *1		
ビットレート	MP3：8 kbps ～ 320 kbps 、WMA：32 kbps ～ 192 kbps		
最大収録曲数 *2	約 500 曲	約 250 曲	約 120 曲
周波数特性	60 Hz ～ 20 kHz、+ 0 dB ～ - 3 dB（オーディオ）		
出力端子	ヘッドフォン（ステレオミニジャック× 1）		
入力端子	LINE IN（ステレオミニジャック× 1）		
実用最大出力	ヘッドフォン 7 mW + 7 mW（32 Ω）		
電源	単 4 形アルカリ乾電池× 1		
連続再生時間	約 17 時間（オーディオ再生）*3、約 2.5 時間（ダイレクトレコーディング時）		
本体寸法	約幅 50 mm × 高さ 50 mm × 奥行 15 mm（突起部含まず）		
質量	約 30 g（本体のみ）、約 42 g（乾電池含む）		

*1 デジタルデータの著作権を保護するため複製に制限のかけられた WMA ファイルです。
*2 WMA：64 kbps、1 曲 4 分とした場合
*3 条件：MP3（128 kbs、fs=44.1 kHz）ファイル再生、バックライト：OFF、EQ（イコライザー）：ノーマルで再生した場合

■ 対応 OS

Windows®XP、Windows®Me 、Windows®2000、Windows® 98SE*

* Windows98SE の場合のみ、付属の CD-ROM による USB ドライバのインストールが必要です。

6-3. アンケート・ユーザー登録

このたびは、ビクター商品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。今後のよりよい商品の開発に反映させるために、アンケートおよびユーザー登録にご協力をお願いいたします。

●下記アドレスのホームページより、ご回答ください。

http://www.victor.co.jp/reg/audio/index.html

6-4. 保証書とアフターサービス (必ずお読みください)

保証書	補修用性能部品の最低保有期間
所定事項記入及び記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。 保証期間はお買い上げの日より１年間です。	製造打ち切り後６年です。 補修用性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

ご相談窓口におけるお客様の個人情報につきましては、日本ビクター株式会社およびビクターグループ関係会社（以下、当社）にて、下記のとおり、お取り扱いいたします。

・お客様の個人情報は、お問い合わせの対応、修理およびその確認連絡に利用させていただきます。
・お客様の個人情報は、適切に管理し、当社が必要と判断する期間保管させていただきます。
・次の場合を除き、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

① 上記利用目的のために、協力会社に業務委託する場合。当該協力会社に対しては、適切な管理と利用目的外の使用をさせない措置をとります。
② 法令に基づいて、司法、行政またはこれに類する機関から情報開示の要請を受けた場合。
③ お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

ご相談や修理は

製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 ビクターサービスエンジニアリング株式会社	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 お客様ご相談センター
別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120−2828−17 携帯電話・ＰＨＳ・ＦＡＸなどからのご利用は 電話 (045)450-8950 FAX (045)450-2275 〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

・ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについては、８４ページをご覧ください。

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

ＡＶ＆マルチメディアカンパニー

〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

お客様にご記入いただいた保証書は、保証期間中、及びその後の点検サービス活動のために記載内容を利用させていただく場合が有りますので、ご了承ください。
本書は、本書記載内容で、無料修理又は本体部の交換を行なうことをお約束するものです。
保証対象はハードウエアのみでソフトウエアは含みません。
本製品使用時に利用されるパソコン、ハードウエア、その他関連システムなどに起因する互換性の問題は保証の範囲に入りません。
この製品を使用したため、又は使用できなかったためにいかなる損害が発生しても保証の範囲に入りません。
何らかの理由により、修理又は該当製品と同等の製品に交換できない場合、お客様のご希望を確認の上、その後継機種との交換を持ってこれに換える場合が有ります。

1. 保証期間中、取扱説明書及び本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合は、無償修理または本体部の交換をさせていただきます。その際弊社の判断で再生部品を用いる場合が有ります。修理に出す前に、メモリ内のデータはお客様にてバックアップをしてください。また、本製品及びパソコンの不具合、誤使用によりデータが破損または消去された場合、データ内容及びそれに伴う一切の補償はできません。
商品と本書をお買い上げの販売店にご持参ご提示のうえ、修理をご依頼ください。
2. 保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、又は別紙「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ、最寄のサービス窓口にご相談ください。
3. 次のような場合は保証期間内でも有料修理にさせていただきます。
（1）本書のご提示がない場合。
（2）本書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名の記載がない場合。
（3）ご使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
（4）お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
（5）火災、地震、風水害、雷その他の天災地変、虫害、塩害、公害ガス害（硫化ガスなど）や異常電圧、指定以外の使用電源（電圧・周波数）による故障及び損傷。
（6）不具合の原因が本製品以外（外部要因）による場合。
（7）一般家庭用以外（例えば業務用等への長時間使用及び車両、船舶への搭載）に使用された場合の故障及び損傷。
（8）消耗品（電池など）の消耗。
（9）持込み修理の対象商品を直接メーカーへ送付した場合の送料はお客様負担とさせて戴きます。また、出張修理を行なった場合には、出張料はお客様負担とさせて戴きます。
（10）不注意、許可なしに行なった修正 / 改造、あるいは事前承諾を得ずに付加した部品又はインストールしたソフトウエア、ファームウエアが原因となって損傷が発生した場合。
4. この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって日本ビクター㈱及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店又は別紙のビクターサービス窓口にお問い合わせください。
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in japan.

保証書

持込修理

<table>
<tr><td>型名</td><td colspan="3">XA-MP20-A/-P, XA-MP50-A/-W
XA-MP100-H/-N</td><td colspan="2">製造番号</td></tr>
<tr><td rowspan="2">お客様</td><td>お名前</td><td colspan="4">ふりがな
様</td></tr>
<tr><td>ご住所</td><td colspan="4">□□□-□□□□　電話（　）　－</td></tr>
<tr><td colspan="3">お買い上げ年月日
年　月　日</td><td>保証期間</td><td colspan="2">お買い上げ日から
本体　1年間</td></tr>
<tr><td colspan="6">お 買 い 上 げ 店　住所・店名・電話</td></tr>
</table>

お客様へのお願い。

1. 本書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名が記載されているかお確かめください。万一記入がない場合は直ちにお買い上げ販売店にお申し出ください。購入日の確認出来る書類（シールやレシート等）の添付でもかまいませんので、大切に保管してください。
2. ご贈答品等で、本書記載のお買い上げ販売店に修理がご依頼になれない場合は、別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ、最寄りのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。
3. ご転移の場合は、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
4. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。

1005KMMCREBET